

* * イ カ ナ ゴ 情 報 No. 4 * *

北海道立中央水産試験場
後志南部地区水産技術普及指導所

調査の概要

2008年5月19日に、今漁期の5月1日から5月19日までに採集していただいた島牧～寿都海域の漁獲物標本を指導所に持ち寄り、島牧、寿都の漁協と役場の皆様、指導所職員、水試職員で体長測定を実施しました。現在までの資源状況と終漁時期の見通しについて検討しましたので、お知らせします。

現在の漁獲主体は30～40mmサイズ → 来週から月末にかけ終盤へ

前報までに報告しておりました、4月の漁期前調査、初漁期調査で確認してきた群（図中、青色線の囲み部分）は、その平均サイズが、5月1日時点で20mm台後半にあり、19日時点では30mm台後半から40mm台前半のサイズに達しています。この図からは明瞭に読み取ることができませんが、この青色線で囲んだ成長群の中には、これまでの報告にありますように、ふ化日が異なる2つの群が混在しています。5月中旬以降の成長速度は、目算で1日あたり0.8mm程度とみられ、このままの速さで成長すると来週初め頃には45mm前後に達し、次第に漁獲対象から外れていくのではないかと考えられます。

また、5月中旬になって新たな群（図中、橙色線の囲み部分）が漁獲対象となりました。こちらの平均サイズは5月19日時点で30mm前後であり、このまま1日あたり0.8mm程度で成長が進むと、月末から来月初め頃には45mm前後に達し、次第に漁獲対象から外れるとみられます。

さらに、5月14日以降の標本には平均20mm前後の小型魚が現れており（図中、黒線の囲み部分）、例年の傾向と同様に漁期中盤以降に加入する遅いふ化群が漁獲対象となってきているようです。こちらについてはどの程度の資源規模なのか、はっきりとは判りませんが、現時点でさほどの漁がないようであれば、前述の群（青色線囲み、橙色線囲み）が主体のまま終盤に入ると考えられます。

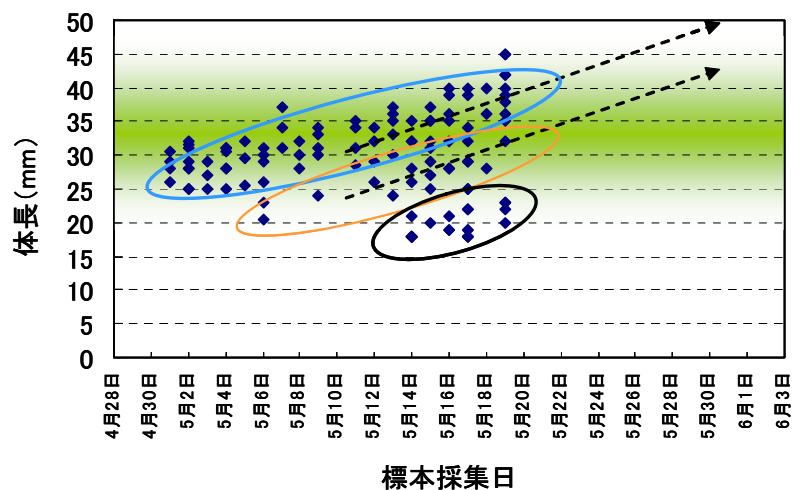


図 体長組成のモードの変化